

令和5年度  
発達障害者相談支援スキルアップ研修  
実施報告

東京都発達障害者支援センター(TOSCA)

# 研修概要

目的: 区市町村における相談支援の質を確保するため、支援現場で中核を担う人材の育成  
(より実践的な技術の取得(スキルアップ))を図り、相談支援窓口における支援力の強化に  
資すること

対象: 区市町村ならびに発達障害に関わる支援機関において、相談支援業務等の中核を担う職員

内容:

- 相談研修Ⅰ 「乳幼児期の発達障害」 ～理解と支援～
- 相談研修Ⅱ 「思春期の発達障害」 ～理解と支援～
- 相談研修Ⅲ 「発達障害への支援」 ～教育から社会へ～
- 相談研修Ⅳ 「強度行動障害について」
- 実技研修Ⅰ 「アセスメント技術を高める」
- 実技研修Ⅱ 「発達障害のある人へのソーシャルスキルズ・トレーニング」  
～「SST」という支援方法を知ろう～
- 実技研修Ⅲ 「発達障害の計画相談支援技術を高める」
- 実地研修 発達障害のある人々への支援の実際～支援者としてのあり方を振り返る～
  - 実地研修Ⅰ 「成人期における知的障害を伴う自閉症の人への支援の実際」  
～通所施設の本人支援と家族支援の実際を通して～
  - 実地研修Ⅱ 「乳幼児期における発達障害の子どもへの支援の実際」  
～児童発達支援センターにおける本人支援と家族支援の実際を通して～

## ■相談研修Ⅰ

# 研修内容と実施状況

## ■相談研修Ⅰ「乳幼児期の発達障害」～理解と支援～

・講師:田中 哲 氏

(子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長 精神科医師)

・事例提供:江村 久美子

(めばえ学園【児童発達支援センター】支援員)

・日時:令和5年9月9日(土)13:30～16:30

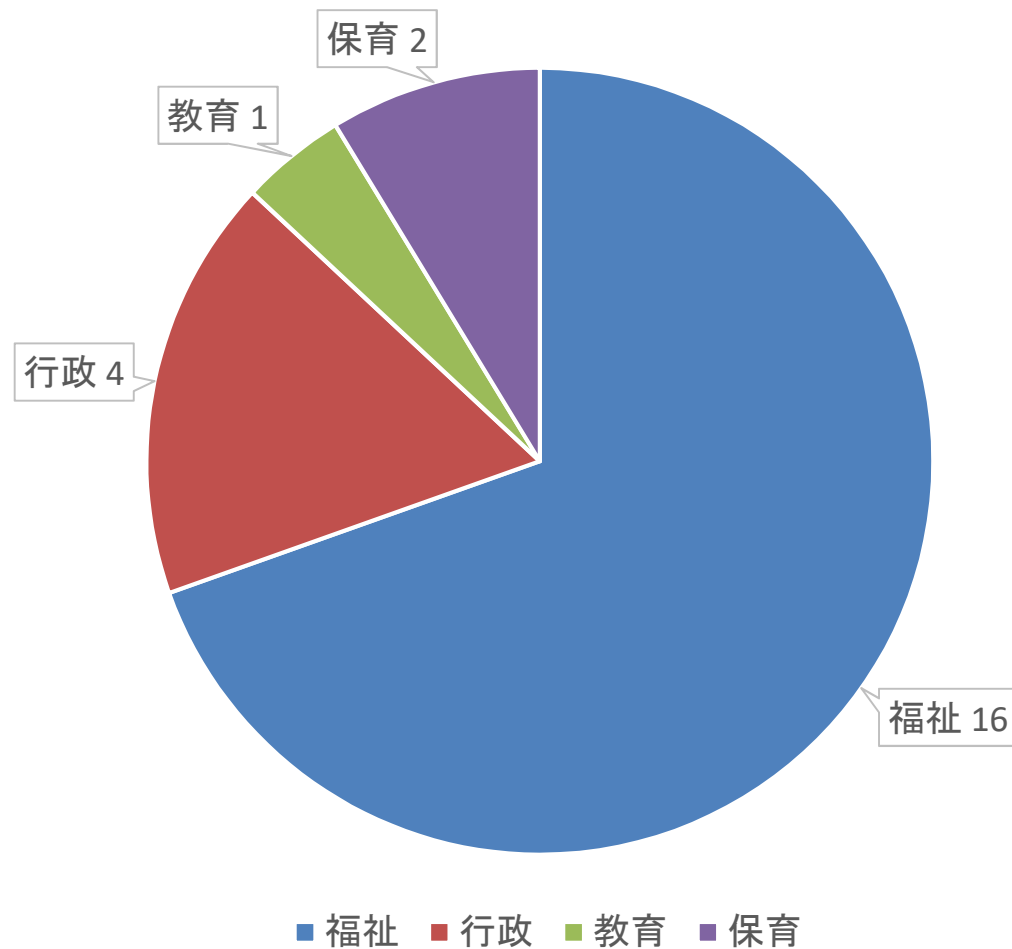
・場所:社会福祉法人嬉泉 子どもの生活研究所

・実施形態:集合研修

・参加人数:23名 (申し込み:25 / 定員:20)

# 参加者の概況(所属等)

## ■ 相談研修 I 「乳幼児期の発達障害」 ～理解と支援～



N=23/20

## ■ 相談研修 I : 参加動機

★事後アンケートによる

- ・乳幼児期に必要な支援を学びたかった。
- ・他の施設の方々と関わる機会がないため、話を聞きたかった。
- ・現場での実践に行かせる学びを得たかった。
- ・発達支援に関わり始め、まだ日が浅いのでいろいろな勉強をしていきたいと思った。
- ・子どもの知識が不十分で勉強したかった。
- ・小学生の発達障害の子供が乳幼児期にどのように過ごしてきたのかを知りたかった。
- ・保育園にも障害を持つ、集団生活に困っている子を見て療育と保育両方の重要性を感じ、学ぶため。
- ・乳幼児期の児童の相談が増えてきたから。
- ・医療の立場から見た発達障害および乳幼児期の課題に関心があった。

## ■ 相談研修 I : 感想

★事後アンケートによる

- ・乳児・幼児期の心の発達、社会性の発達についてコミュニケーションモードを例に詳しく教えていただき、成長過程で必要な関わりについて改めて気づくことが多くあった。
- ・子どもの支援を考えるときの視点が良く分かり、私の中で変化したと思う。
- ・今まで見えなかったお子さんの心の中の動きを分かりやすく理解することができ、今後の支援で今回の件を踏まえながら考えていきたいと感じた。
- ・課題を解決することのみが先行するのではなく、「その子を知る」ことにたくさん考え話し合うことの大切さを感じた。
- ・実際にいる児童と合わせて考えることができ、他事業所での取り組みを聞くことができてよかった。また自分の支援の幅を広げることができた。
- ・支援とは児童が外で生きていく力をつけるために手伝えることだと感じた。同時に親への支援の重要性を学んだ。

## ■相談研修Ⅱ

# 研修内容と実施状況

## ■相談研修Ⅱ 「思春期の発達障害」 ～理解と支援～

・講師：木村 一優 氏

（医療法人新新会 多摩あおば病院 精神科医師）

・事例提供：高濱 明子

（清瀬市子どもの発達支援・交流センター 公認心理士）

・日時：令和5年9月20日（水）13:30～16:30

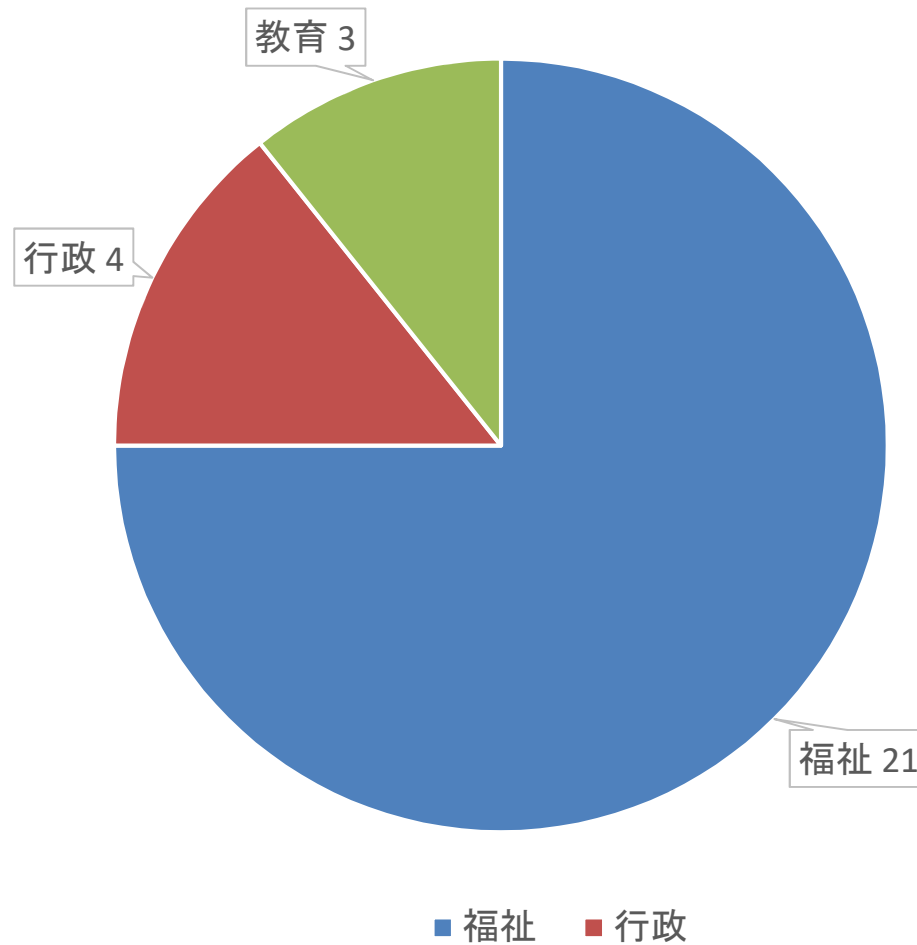
・場所：ワйм貸会議室お茶の水 Room D

・実施形態：集合研修

・参加人数：28名（申し込み：30 / 定員：20）

# 参加者の概況(所属等)

## ■ 相談研修Ⅱ 「思春期の発達障害」 ～理解と支援～



N=28/20



## ■ 相談研修Ⅱ：参加動機

★事後アンケートによる

- ・担当している対象者が思春期の児童やその保護者。
- ・思春期の人の相談が増えてきているから。
- ・担当している対象者の支援に悩んでいたため。
- ・思春期の発達障害について興味関心があった。
- ・思春期の発達障害について理解を深めるため。支援のヒントを得るため。
- ・年代別に発達障害の特性の表れ方や関り方を学びたかった。
- ・就学相談時、先を見通した話をしたい。また就学後、学校でのトラブルになるケースも多いため。
- ・これから思春期を迎える保護者との関わり方に難しさを感じているため。
- ・思春期の発達障害について精神科医の話を聞きたかった。

## ■ 相談研修Ⅱ：感想

★事後アンケートによる

- ・発達障害の中のASDの対象者について行動や思考過程について理解を得られた。
- ・こだわりに対する考え方は日頃保護者さんから相談をいただくことの一つなのでとても参考になった。療育に携わっている身として改めて自分の役割を考えるきっかけとなった。
- ・自閉症の方はフラッシュバックしやすい、時間がとまっている可能性があるというお話を聞いて、今まさに自分が支援している方に対して思い当たることがあり、とても納得した。その方を変えようとするのではなく、その背景にある不安やとまどいについて一緒に考えていければと思った
- ・さまざまな機関、所属、職種の人とディスカッションできてよかった。視点が広がった。気づきを得られた。共通点を感じた。情報が得られた。
- ・本人のニーズに視点を置く反面、親のニーズにも目を向けていくことへの大切さを学んだ。
- ・思春期特有の難しさ、ニーズアセスメント、親対応など気づくことができた。対象年齢18.19歳の壁、つなぎの難しさが課題であると思う。

## ■相談研修Ⅲ

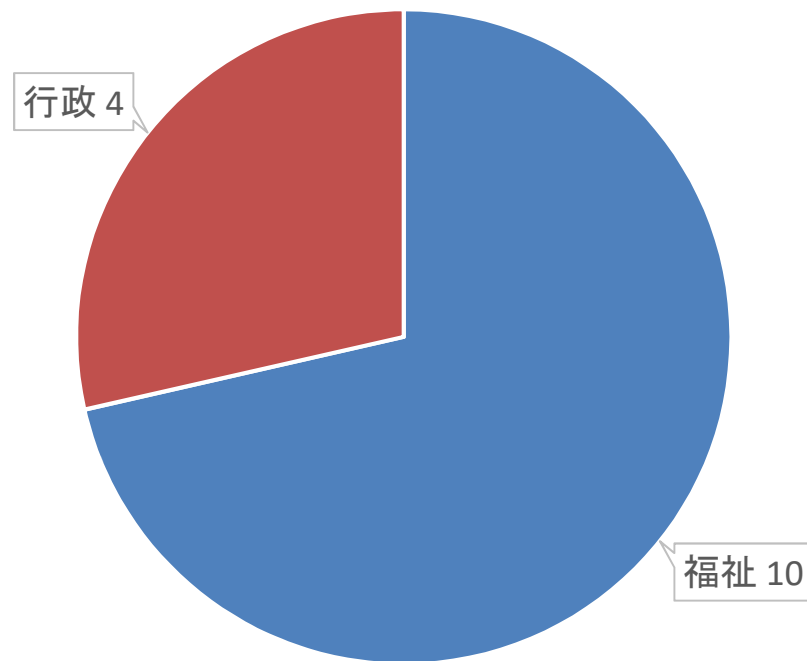
# 研修内容と実施状況

## ■相談研修Ⅲ 「発達障害への支援」 ～教育から社会へ～

- ・講師: 渡辺 慶一郎 氏  
(東京大学相談支援研究開発センター副センター長)
- ・事例提供: 柏木 理江  
(東京都発達障害者支援センター 相談員)
- ・日時: 令和5年10月23日(月)13:00～16:00
- ・場所: ワイム貸会議室お茶の水 Room B
- ・実施形態: 集合研修
- ・参加人数: 14名 (申し込み: 17 / 定員: 20)

# 参加者の概況(所属等)

## ■ 相談研修Ⅲ 「発達障害への支援」 ～教育から社会へ～



■ 福祉 ■ 行政

N=14/20

## ■ 相談研修Ⅲ：参加動機

★事後アンケートによる

- ・子ども～大人まで、発達障害の方の相談支援を行う機会がよくあるため。
- ・発達障害の方が、学校での教育現場での困り感を教育でどのように支え、社会にどのように働きかけがなされていくのか知りたくて参加した。
- ・支援対象が高校～若年層であることが多く、どのようなことが課題になるのか、理解を深めたかったため。
- ・自身が対応している利用者の方は学生が多く、そこから支援するために考えられればと思ったため。
- ・大学生からの就活でのつまずきや社会人1～2年目での会社での不適應の相談が一定数あるため。
- ・様々な利用者の方の支援に行き詰っていたため、何かヒントになればと思った。

## ■ 相談研修Ⅲ：感想

★事後アンケートによる

- ・10代～30代まで死因の第一位が自殺であることに驚いた。希死念慮の訴えに対して丁寧に関わり続けていこうと思った。
- ・伴走するしかできない方も数人担当している為、それでよいのか不安もあったが、それをし続けることの意味をあらためて感じられて勇気づけられた。
- ・対応の難しいケースであってもあきらめることなく、支援し続けることをどうしていくかを模索し続けていくことの大切さを感じた。
- ・いろいろな意見交換ができて自分だけでは気づけなかったことを聞くことができた。地域、職種の違いの違う人の話を聞けることはとても有意義だった。
- ・同じグループの方の視点や社会資源について話を聞くことができて、勉強になった。困難事例についてはスタンダードではすすまないのもみんなで意見を出し合うことが大切だと思った。
- ・表面的な行動や目立つ言動の内側にアプローチしていくことの大事さ、  
スタッフ同士の情報交換や協力にも意識していこうと思った。

## ■相談研修Ⅳ

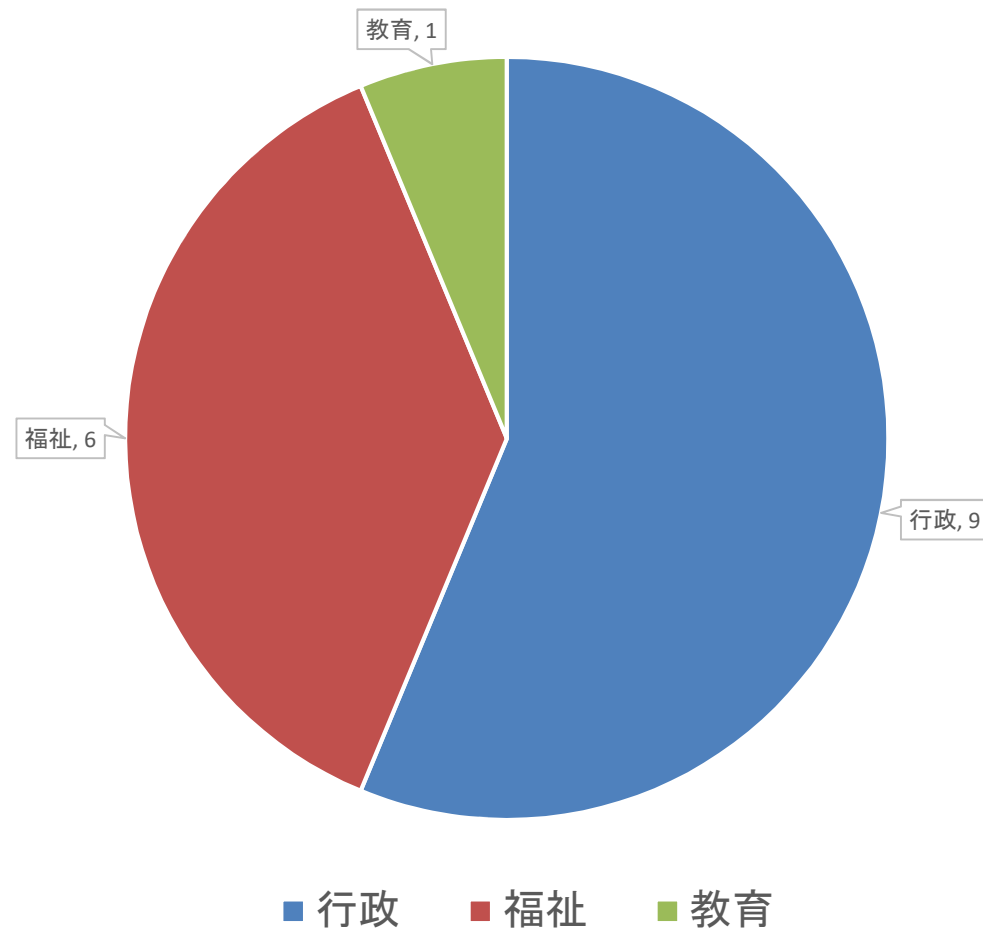
# 研修内容と実施状況

## ■相談研修Ⅳ 「強度行動障害について」

- ・講師:沼倉 実  
(社会福祉法人嬉泉 理事)
- ・事例提供:鳥飼 知之  
(袖ヶ浦のびろ学園 主任 支援員)
- ・日時:令和6年1月23日(火)13:30~16:30
- ・場所:社会福祉法人嬉泉 子どもの生活研究所
- ・実施形態:集合研修
- ・参加人数:16名 (申し込み:18/定員:20)

# 参加者の概況(所属等)

## ■ 相談研修Ⅳ 「強度行動障害について」



N=16/20



## ■ 相談研修Ⅳ：参加動機

★事後アンケートによる

- ・問題になる行動で困る子どもの理解を深めたかった。
- ・以前、スキルアップ研修に参加して良かったため。
- ・強度行動障害について学びたかった。
- ・互いのある子どもへの支援について、今後の方向性を対応する職員にどのように伝えたらよいか悩んでいたため。
- ・強度行動障害の支援の実践を聞きたかった。
- ・生徒の中に軽度の行動障害がある者がいるため。
- ・強度行動障害のある方の相談、支援を行っており、知識を得かった。
- ・相談支援で関わるケースで、行動障害の状態から支援の方向が定まらないことがあり、理由や対応を知りたかった。
- ・発達障害の相談支援、子育て家庭の支援の仕事をしており、知識を深めたかった。
- ・強度行動障害がある方の支援のヒントが欲しかった。

## ■ 相談研修Ⅳ：感想

### ★事後アンケートによる

- ・支援のポイントや初期対応など知ることができ、非常に参考になった。日々の支援に活かしていきたい。
- ・行動にどうしても目が向いてしまうが、その行動には本人なりの理由があること、耳を傾ける、確認する作業は必要だと改めて考えさせられた。
- ・強度行動障害について、様々なヒントがもらえて、色々なアイデアが浮かんだ。実際の支援は大変だが役立てていきたい。
- ・本人の背景や気持ちを想像し、汲み取っていくことが第一歩なのだと思う。
- ・行動障害は本人が一番困っている状態のため、行動の理由を見つけるために、耳を傾ける、環境調整の必要性を理解した。
- ・行動の理由が何かということで対応が変わることを改めて考え直すきっかけになった。
- ・非常に分かりやすく、支援のベースとなる講義だった。勉強になった。
- ・他自治体とのグループディスカッションは楽しかった。自分では思いつかない視点やアイデアが出てくるのはグループワークの良さだと思う。
- ・目に見える行動だけで本人を判断せず、本当に伝えたいことを信頼関係の築きから、互いに伝えられるのが支援と感じた。ヘルプに気づき、ヘルプを出せるようになりたいと思った。
- ・一人ではなく、周囲と連携をとり、チームとして関わっていくことの大切さを改めて感じた。
- ・非常に勉強になった。きちんとチームで関わりたい。

## ■実技研修 I

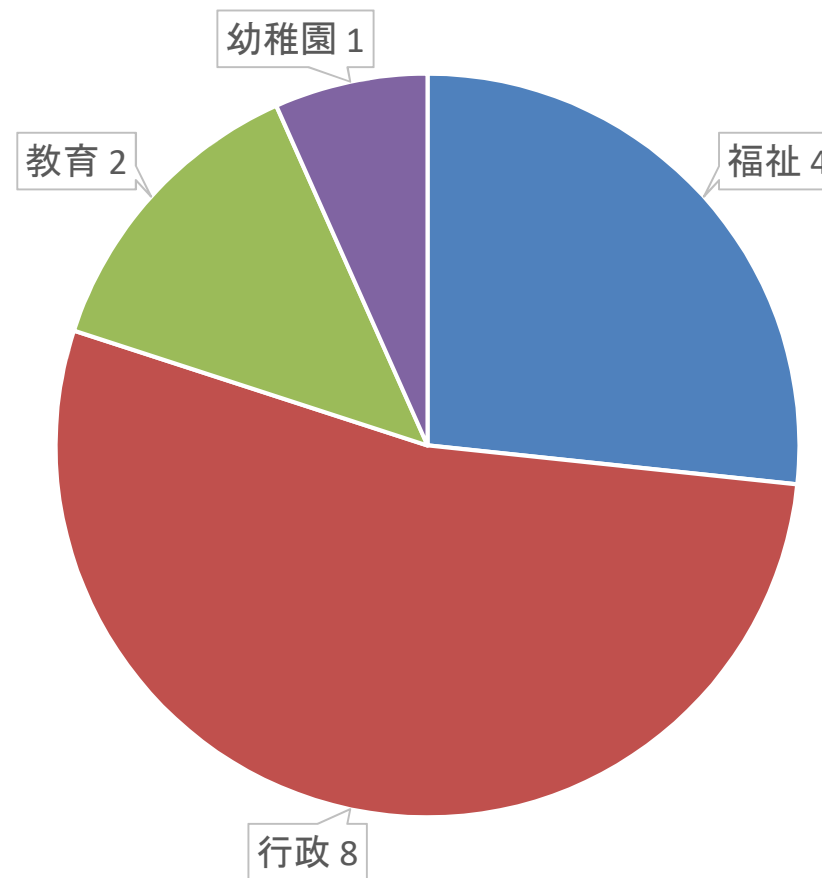
# 研修内容と実施状況

## ■実技研修 I アセスメント技術を高める

- ・講師:近藤 直司 氏 (大正大学名誉教授)
- ・日時:令和5年8月3日(木)10:00~15:00
- ・場所:ワйм貸会議室お茶の水 Room A
- ・実施形態:集合形態
- ・参加人数:15名 (申し込み:16 / 定員:20)

# 参加者の概況(所属等)

## ■実技研修 I「発達障害者へのアセスメント技術を高める」



■ 福祉 ■ 行政 ■ 教育 ■ 幼稚園

N=15/20

## ■実技研修 I : 参加動機

★事後アンケートによる

- ・アセスメントについて学びたいと思った。
- ・業務上ケース会議をするので、すすめ方やフォーマットなどを学びたいと思った。
- ・スタッフ間でケース検討を行うときに共通の枠組みになるとよいと感じていた。
- ・アセスメントを他者への伝える方法を学びたかった。
- ・職場内での共通意識の方法を知りたかった。
- ・自分なりのやり方ではなく、根拠のあるやり方を身につけたかった。
- ・アセスメントから支援方針に進める際ケースカンファレンスのみでなく、日常ケースワークの中で説明する場面が少なくないためトレーニングを受けたかった。
- ・日常業務のふりかえりとヒントを得たかった。
- ・アセスメントに関して関心があったため。

## ■実技研修Ⅰ：感想

★事後アンケートによる

- ・“わかりやすさ”の大切さをあらためて感じた。今回の講義で、抽象や具体、三人称、一人称などどうしたら分かりやすいかを教えていただいたので、活かしていきたいと思った。
- ・根拠をもってアセスメントプランをすることの重要性和、無駄な情報がないか選択して伝える必要性に気づかされた。
- ・5分レポート、時間を意識し、何を伝えなければいけないか…大変勉強になった。わかりやすくどう伝えるか意識したいと思う。
- ・時間を無駄にせずスムーズに行えるように、伝えられるようになりたいと思った。自分が言いたいことではなく、伝えなければいけないことなど日頃から意識していきたいと思う。
- ・アセスメントやケース会議に限らず、仕事の進め方、考え方、会議の進行についても活かしていけると感じた。
- ・他機関の方と意見交換が出来て良かった。自分の考えや支援計画が整理できて良かった。

## ■実技研修Ⅱ

# 研修内容と実施状況

## ■実技研修Ⅱ

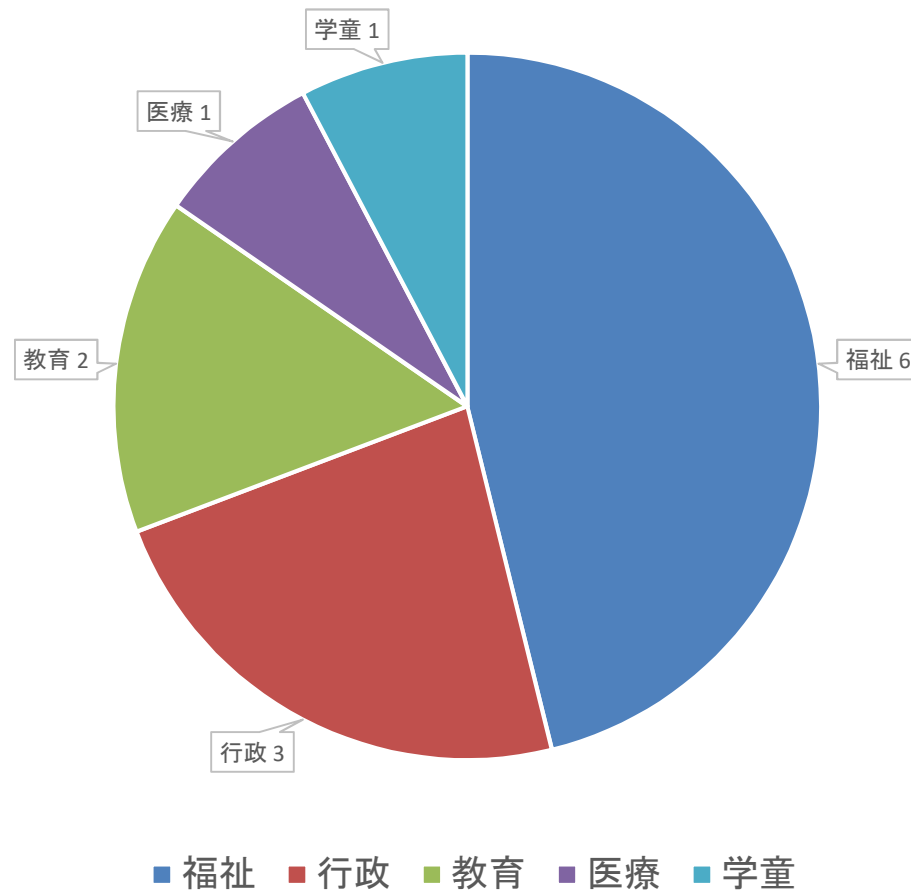
発達障害のある人へのソーシャル・スキルズ・トレーニング  
～『SST』という支援方法を知ろう～

- ・講師：岡田澄恵氏（SST普及協会認定講師）  
河島京美氏（SST普及協会認定講師）  
清水有香氏（SST普及協会認定講師）
- ・日時：令和5年11月22日（水）10:00～15:00
- ・場所：ワコム貸会議室高田馬場 Room 3A～3C
- ・実施形態：集合形態
- ・参加人数：14名（申し込み：17 / 定員：30）

# 参加者の概況(所属等)

## ■実技研修Ⅱ

### 発達障害のある人へのソーシャル・スキルズ・トレーニング



N=14/30



## ■実技研修Ⅱ：参加動機

★事後アンケートによる

- ・発達障害のある方の視点にたったSST、ポイントや注意事項等、個別面談の中で行えるSSTの方法を学びたいと思った。
- ・カウンセリングにSSTを生かすために参加した。
- ・現場で個別SSTの機会があり、より理解を深めたいと思ったため。
- ・SSTについて内容の理解を深めるため。
- ・支援の際にかける言葉や言い方など円滑なコミュニケーション方法を学ぶため。
- ・特別支援教育や保護者とも相談の中で活用できたらと思ったため。
- ・SSTを療育の中で取り入れたい。SSTの知識と技術を学びたかった。
- ・対応する方に発達障害の方が多く、仕事や日常生活の中で困難を抱えている方が多いため。
- ・SSTについて、実施について学びを深めたいと思ったのと、他の発達障害に関わる方々の現状や取り組みを学び、日常の関わりにも活かしていきたいと思った。
- ・児童支援の一つとして、SSTを求められるため。

## ■実技研修Ⅱ：感想

### ★事後アンケートによる

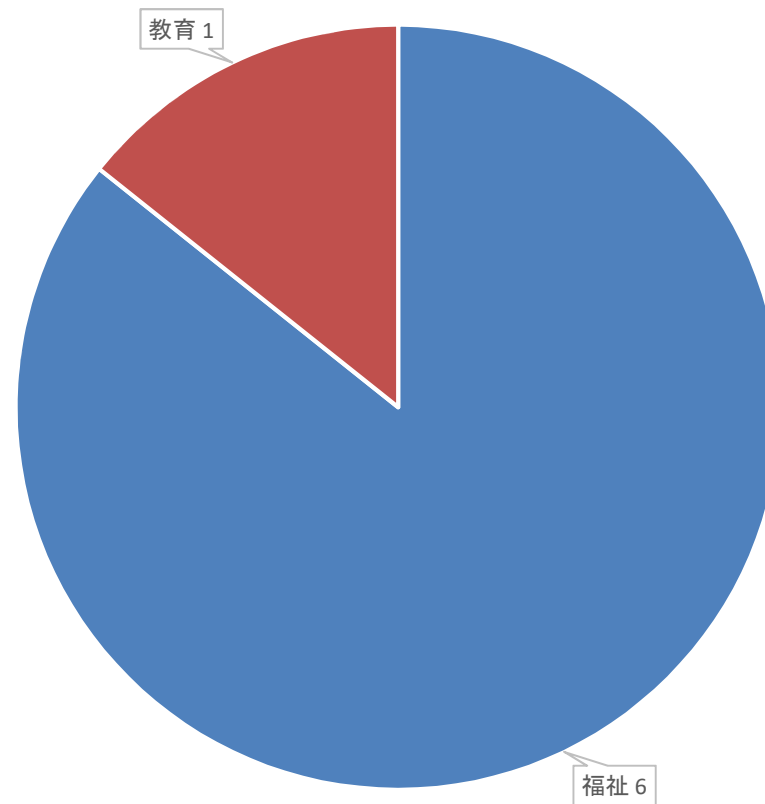
- ・これぞ現場に必要な技法だと思いました。SSTを通して、よりよくなる現場は多いと感じた。
- ・コミュニケーションスキルは当事者にとっても、当事者を支える家庭、支援者にとっても大切で色々な場面で用いることのできる場面があると思った。「ほめる」ということが大切だなと再確認した。
- ・講義だけだとなんとなく分かったつもりになるが、デモをして上手くいかないところや、困ることがでてきた。それをその場で確認、FBをもらえるため、勉強になった。
- ・多職種の方とグループができて楽しかった。各々の職場の方、自分の立場で近い場面を想定して個別SSTを経験させていただいたことでよりイメージがついた。SSTという手法を活用し、よりこちよい対人援助をしていきたい。
- ・楽しかった。日常支援でモヤモヤしていたこと、少しすっきりした。グループの人達、  
一人ひとりと先生の言葉にたくさん気づきをもらった。
- ・今回は以前から学びたいと思っていたSSTだが、とても勉強になった。自分の引き出しに必要な技術だと思った。全体を通して医療的な視点や年代別の視点など幅広い学びがあった。

## ■実技研修Ⅲ 発達障害の計画相談支援技術を高める

- 講師: 宇治原 誠  
(社会福祉法人嬉泉 子ども発達支援センターたのしみ  
副センター長)
- 日時: 令和5年12月4日(月)13:30～16:30
- 場所: ワイム貸会議室お茶の水 Room B
- 実施形態: 集合形態
- 参加人数: 7名 (申し込み: 7 / 定員: 20)

# 参加者の概況(所属等)

## ■実技研修Ⅲ 発達障害の計画相談支援技術を高める



■ 福祉 ■ 教育

N=7/20

## ■実技研修Ⅲ：参加動機

★事後アンケートによる

- ・定時制の現場において、発達障害のある生徒が多く、その支援計画の相談が必要であるため。
- ・相談支援にきて、3年目を迎え、より知識や技術を高めたいと感じていた。参加できて良かった。
- ・担当する方(発達)で対応に行き詰ることが多い。相談員としての引き出し、相談支援技術を身に着けたい。
- ・上司からの提案。また4月より計画相談業務に携わるようになったため、計画相談のスキルを上げることを目的
- ・本年度4月に相談支援事業所で仕事をすることになり、計画相談する上でのポイントや大切にすべきことを知りたいと思ったため。
- ・発達障害の方への計画相談の支援で難しいと感じることがあったため。

## ■実技研修Ⅲ：感想

★事後アンケートによる

- ・支援のポイントをいくつか挙げていただく中で、良好な関係作りや良き仲介者になるなど、当事者だけではなく、普段接する保護者にも当てはまるなど感じた。
- ・普段、教育の世界にいるため、「できるようにするためにはどうすればよいか」に目を向けがちだが、「いかに補完するか」という視点が大切だと、強く感じた。
- ・具体的なアイデアをたくさん聞くことができ、本当に勉強になった。頂いたアイデアを生かせるように頑張りたい。
- ・皆さんの事例を聞く中で自分の関わりに立ち返ったり、こういう考え方もある等、  
具体的で実務的な勉強になった。
- ・「ご本人やご家族はどう思っているのだろう」、関係機関の役割とは…など、相談支援としての大切なことに立ち返れた。
- ・目の前の問題にびっばられたり、考えが固まっている面もあると気づいた。基本に立ち返る(関係機関の話をきく、アセスメントを深める)が大切だと思った。

## ■実地研修Ⅰ／Ⅱ

# 研修内容【予定】

### 実地研修 発達障害のある人々への支援の実際

～支援者としてのあり方を振り返る～

#### ■実地研修Ⅰ 通所施設の本人支援と家族支援の実際を通して

講師：沼倉 実(おおらか学園園長)

- ・日時：令和6年2月28日(水)10:00～12:00
- ・実施形態：集合研修
- ・定員：10

#### ■実地研修Ⅱ 児童発達支援センターにおける本人支援と家族支援の実際を通して

講師：坂田由紀子(めばえ学園園長、東京都発達障害者支援センター センター長)

- ・日時：令和6年2月29日(木)10:00～12:30
- ・実施形態：集合研修
- ・定員：10

## まとめ＜今後の課題＞

今年度は、全て集合研修で実施した。

内容については、ライフステージやニーズが高いと思われるものをテーマに、例年同様、講義とディスカッションという組み合わせで行った。

グループディスカッションについては、「地域、職種の違う人の話を聞けることはとても有意義でした」「さまざまな機関、所属、職種の人とディスカッションできてよかった。視点が広がった。気づきが得られた。」といった感想等、高評価を得ることができた。次年度についても引き続き、講義内容を深め、実際の現場に活かせる実践的な研修の提供を検討していきたい。

研修の広報・周知手段については、東京都より各区市町村に向けた周知と、社会福祉法人嬉泉のホームページへの掲載を中心としたが、受講者数が定員を満たない研修もあった。その点については、研修内容をより充実させていくことと同時に、これまで研修を受講された方のメーリングリストを作成する等、周知方法を見直していく。